



Sun Fire™ X2100 M2 サーバー オペレーティングシステム インストールガイド

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 819-7539-10
2006年9月、改訂A

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。

本書および本製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Sun Microsystems, Inc. またはそのライセンス許諾者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティソフトウェア (フォントに関するテクノロジーを含む) は、著作権を有する当該各社より Sun 社へライセンス供与されているものです。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、Sun 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国 およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国 およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャが採用されています。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザーインターフェースは、Sun Microsystems, Inc. がユーザーおよびライセンス被許者のために開発したものです。Sun 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。Sun 社は、Xerox グラフィカルユーザーインターフェースに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する Sun 社のライセンス被許者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許者は Sun 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利—商用。政府関連のユーザーは、Sun Microsystems, Inc. の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, Californie 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. a les droits de propriété intellectuelle relatants à la technologie qui est décrit dans ce document. En particulier, et sans la limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains énumérés à <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets plus supplémentaires ou les applications de brevet en attente dans les Etats-Unis et dans les autres pays.

Ce produit ou document est protégé par un copyright et distribué avec des licences qui en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Le logiciel détenu par des tiers, et qui comprend la technologie relative aux polices de caractères, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, et Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

L'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox pour la recherche et le développement du concept des interfaces d'utilisation visuelle ou graphique pour l'industrie de l'informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface d'utilisation graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciées de Sun qui mettent en place l'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et qui en outre se conforment aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISEE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

はじめに v

1. オペレーティングシステムのインストールの概要 1
 - サポートされているオペレーティングシステム 2
 - オペレーティングシステムのインストールのタスク 3
 - オペレーティングシステムのインストールの準備 4
 - ディスプレイ環境の設定 4
 - プライマリブートディスクの消去 4
 - オペレーティングシステムをインストールするための BIOS 設定 5
 - オペレーティングシステムのインストール方法の選択 6
 - CD-ROM または DVD 7
 - ネットワークインストール (PXE/Jumpstart/RIS) 7
 - 仮想 CD-ROM を使用したリモート KVMS Over IP 9
 - シリアルリダイレクト 10
2. Solaris オペレーティングシステムのインストール 13
 - オペレーティングシステムのインストール 14
 - オペレーティングシステムのインストールの概要 14
 - オペレーティングシステムのインストール方法 15

システム固有ドライバのインストール	16
KVMS Over IP を使用したドライバのインストール	17
Sun Fire X2100 M2 サーバーへのドライバのダイレクトインストール	17
3. Linux オペレーティングシステムのインストール	19
オペレーティングシステムのインストール	20
オペレーティングシステムのインストールの概要	20
オペレーティングシステムのインストール方法	21
システム固有ドライバのインストール	22
KVMS Over IP を使用したドライバのインストール	23
Sun Fire X2100 M2 サーバーへのドライバのダイレクトインストール	23
アップデートユーティリティの実行	25
RHEL OS 用の up2date ユーティリティの実行	25
SLES OS 用の SuSEWatcher ユーティリティの実行	25
4. Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストール	27
オペレーティングシステムのインストール	28
オペレーティングシステムのインストールの概要	28
オペレーティングシステムのインストール方法	29
Windows Update の実行	29
RAID 設定を持つ Windows Server 2003 のインストール	30
Solaris または Linux を使用した 2003Reburn CD の作成	30
ブートディスクを使用した Windows の RAID ドライバのインストール	32
イーサネットドライバとチップセットドライバのインストール	34
A. Solaris Jumpstart インストールへのパッチの適用	37
B. Windows RIS インストールの実行	41
C. ネットワークインタフェースの設定	53

はじめに

本書では、ワークステーションのハードウェアおよびソフトウェアの設定、電源投入、および構成について説明します。

本書の構成

本書は次の章で構成されています。

第 1 章では、Sun Fire X2100 M2 サーバーにオペレーティングシステムをインストールする準備を行う手順について説明します。

第 2 章では、Solaris 10 オペレーティングシステムをインストールする手順について説明します。

第 3 章では、サポートされている Linux オペレーティングシステムをインストールする手順について説明します。

第 4 章では、Windows Server 2003 をインストールする手順について説明します。

付録 Aには、Solaris Jumpstart インストールのパッチに関する情報が記載されています。

付録 Bには、Windows リモートインストールサービス (RIS) インストールの実行に関する情報が記載されています。

付録 Cには、サポートされている Solaris および Linux オペレーティングシステムのネットワークインタフェース設定に関する情報が記載されています。

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルスーパーユーザー	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルと Korn シェル	\$
Bourne シェルと Korn シェルスーパーユーザー	#

表記上の規則

書体 ¹	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上的コンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上的コンピュータ出力とは区別して示します。	% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『ユーザーズガイド』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

1. ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

関連ドキュメント

Sun Fire X2400 サーバーのドキュメントセットの説明については、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。次の URL から製品のドキュメントサイトに移動してください。

<http://www.sun.com/documentation>

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、ドイツ語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版のドキュメントが最も頻繁に改訂されるため、翻訳版よりも最新であることがあります。

Sun ハードウェアのドキュメントについてはすべて、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/documentation>

Solaris およびその他のソフトウェアのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com>

ドキュメント、サポート、および トレーニング

分野	URL	説明
ドキュメント	http://www.sun.com/documentation/	PDF バージョンまたは HTML バージョンのドキュメントのダウンロードや印刷バージョンのドキュメントの注文
サポートと トレーニング	http://www.sun.com/support/ http://www.sun.com/training/	テクニカルサポート、パッチのダウンロード、Sun のトレーニングコースの詳細

サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号の記載をお願いいたします。
Sun Fire X2100 M2 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド、
819-7539-10

オペレーティングシステムのインストールの概要

この章では、Sun Fire X2100 M2 サーバーに新しいオペレーティングシステムをインストールする場合に必要な情報を説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- 2 ページの「サポートされているオペレーティング システム」
- 3 ページの「オペレーティングシステムのインストールのタスク」
- 4 ページの「オペレーティングシステムのインストールの準備」
- 6 ページの「オペレーティングシステムのインストール方法の選択」

注 - お使いの Sun Fire X2100 M2 サーバーに Solaris™ 10 オペレーティングシステム (OS) がプリインストールされている場合、オペレーティングシステムの設定方法については、『Sun Fire X2100 M2 サーバー設置マニュアル』を参照してください。

サポートされているオペレーティングシステム

サーバーには Solaris 10 6/06 オペレーティングシステム、またはそれ以降のバージョンがプリインストールされている場合があります。これは、お使いのハードディスクドライブの設定によって異なります。Sun Fire X2100 M2 サーバーにプリインストールされている Solaris 10 OS を使用しない場合は、好みのオペレーティングシステムをインストールできます。

Sun Fire X2100 M2 サーバーでは、次のオペレーティングシステム（またはそれ以降のバージョン）がサポートされています。

- Sun Java™ Enterprise System (Java ES) が入った Solaris 10 Operating System (6/06 以降)
- Red Hat Enterprise Linux 3, Update 8, 32 ビットおよび 64 ビット (ES および AS)
- Red Hat Enterprise Linux 4, Update 4, 32 ビット および 64 ビット (ES および AS)
- SUSE Linux Enterprise System 9 (SP 3) 64 ビット (SUSE 認定)
- Windows 2003 Standard Edition (SP 1) 32 ビットおよび 64 ビット (WHQL 認定)

これらのオペレーティングシステムのインストール方法は、それぞれのオペレーティングシステムソフトウェアに付属しているメディアセットに記載されています。

Sun Fire X2100 M2 サーバーには、診断パーティションがプリインストールされています。何らかの理由で診断パーティションがサーバーから削除されている場合は、『Sun Fire X2100 M2 Server Service Manual (Sun Fire X2100 M2 サーバーサービスマニュアル)』(819-6597) で、Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバの CD から診断パーティションを再インストールする方法を参照してください。

オペレーティングシステムのインストールのタスク

ここでは、新しいオペレーティングシステム (OS) のインストールに必要な手順の概要を説明します。

1. ディスプレイの環境を設定します。

OS をインストールするシステムの準備と OS のインストールにオプションの DVD ドライブを使用しない場合は、[4 ページの「ディスプレイ環境の設定」](#)を参照してください。

2. プライマリブートディスクを消去します。

サーバーにオペレーティングシステムがプリインストールされている場合は、まずそれを削除してから新しいオペレーティングシステムをインストールします。[4 ページの「プライマリブートディスクの消去」](#)を参照してください。

3. BIOS を設定します。

インストールするオペレーティングシステムに合わせて BIOS が設定されていることを確認する必要があります。[5 ページの「オペレーティングシステムをインストールするための BIOS 設定」](#)を参照してください。

4. オペレーティングシステムをインストールします。

本書で、インストールするオペレーティングシステムに対応した章を参照してください。

注 - Windows RAID をセットアップする場合は、2003Reburn スクリプトを使用して新しい Windows Server 2003 インストール CD または RAID ドライバのフロッピーディスクを作成してから、オペレーティングシステムをインストールします。[第 4 章](#)を参照してください。

5. ドライバをアップデートします。

本書で、インストールするオペレーティングシステムに対応した章を参照してください。

6. お使いのオペレーティングシステムに対応するオペレーティングシステムのアップデートを実行します。

オペレーティングシステムのインストールの準備

このセクションでは、オペレーティングシステムをインストールするためにサーバーを準備する方法を説明します。

- 4 ページの「ディスプレイ環境の設定」
- 4 ページの「プライマリブートディスクの消去」
- 5 ページの「オペレーティングシステムをインストールするための BIOS 設定」

ディスプレイ環境の設定

ツールとドライバの CD や OS のインストール CD を使用する際にローカルの DVD ドライブとモニターを使用しない場合は、次のいずれかのディスプレイ環境を使用します。

- Embedded Lights Out Manager (LOM) のサービスプロセッサ (SP) を通じて出力を表示する
Embedded LOM の SP を使用して、シリアルコンソールを通じてシステム出力を表示する方法については、『Sun Fire X2100 M2 サーバー設置マニュアル』を参照してください。
- Embedded LOM のリモート KVMs Over IP 機能を使用する
仮想 CD を操作するためのリモート KVMs Over IP のセットアップ方法については、『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

プライマリブートディスクの消去

デフォルトでは、Sun Fire X2100 M2 サーバーのハードディスクドライブには Solaris 10 がインストールされています。別のオペレーティングシステムをインストールしたり、Solaris 10 オペレーティングシステムを再インストールする場合は、Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバの CD のメインメニューにある「Erase Primary Boot Hard Disk」オプションを使用して、インストール済みのオペレーティングシステムを消去して新しいインストールのための場所を空けることができます。



注意 – ツールとドライバの CD から「Erase Primary Boot Hard Disk」オプションを選択すると、診断パーティション以外の、ハードドライブ上のすべてのパーティションが消去されます。すべてのユーザデータが失われるため、この操作を開始する前に、ハードディスクの全データをバックアップしてください。

プライマリブートハードディスクを消去するには、次の手順に従います。

1. ハードドライブ上に必要なデータがあれば、バックアップしておきます。
2. サーバーの DVD ドライブ (オプション) に、ツールとドライバの CD を挿入します。
3. CD からサーバーを起動します。
4. メインメニューが表示されたら、ツールとドライバの CD のメインメニューから次のオプションを選択します。

3. Erase Primary Boot Hard Disk

このオプションを選択すると、プライマリハードドライブ上に現在あるすべてのパーティション (診断パーティション以外) が消去されます。診断パーティションだけは消去されずにそのまま残ります。

オペレーティングシステムをインストールするための BIOS 設定

オペレーティングシステムをインストールする前に、Sun Fire X2100 M2 サーバーの BIOS がインストールするオペレーティングシステム向けに設定されていることを確認する必要があります。インストールするオペレーティングシステムの種類に該当する手順を参照してください。

- [5 ページの「Solaris 10 および Linux OS 用の BIOS の設定」](#)
- [6 ページの「Windows Server 2003 OS 用の BIOS の設定」](#)

Solaris 10 および Linux OS 用の BIOS の設定

「Installed O/S (インストールされた OS)」オプションのデフォルト設定は「Others (その他)」です。デフォルト設定が変更されていない場合は、Solaris や Linux オペレーティングシステム用にこの設定操作を行う必要はありません。

BIOS の「Installed O/S (インストールされた OS)」オプションがデフォルト設定から変更されている場合、Solaris 10、Red Hat Enterprise Linux 3 と 4、および SUSE Linux Enterprise System では次の手順に従います。

Solaris または Linux のインストール用に BIOS を設定するには、次の手順に従います。

1. サーバーの電源をオンにし、Sun ログ画面で F2 キーを押して「BIOS Setup」メニューを開きます。

2. 「Advanced (詳細)」タブを選択し、「ACPI Configuration (ACPI 構成)」を選択します。
3. 「Installed O/S (インストールされた OS)」オプションを「Others (その他)」に変更します。
4. F10 キーを押して変更内容を保存し、BIOS を閉じます。

Windows Server 2003 OS 用の BIOS の設定

Windows Server 2003 のインストール用に BIOS を設定するには、次の手順に従います。

1. サーバーの電源をオンにし、Sun ログ画面で F2 キーを押して「BIOS Setup」メニューを開きます。
2. 「Advanced (詳細)」タブを選択し、「ACPI Configuration (ACPI 構成)」を選択します。
3. 「Installed O/S (インストールされた OS)」オプションを「Windows」に変更します。
4. F10 キーを押して変更内容を保存し、BIOS を閉じます。

オペレーティングシステムのインストール方法の選択

ここでは、オペレーティングシステムをインストールするために考えられる方法の概要を説明します。詳細は、オペレーティングシステムごとのセクションを参照してください。

- [7 ページの「CD-ROM または DVD」](#)
- [7 ページの「ネットワークインストール \(PXE/Jumpstart/RIS\)」](#)
- [9 ページの「仮想 CD-ROM を使用したりリモート KVMS Over IP」](#)
- [10 ページの「シリアルリダイレクト」](#)

CD-ROM または DVD

この方法では、サーバー内蔵の DVD、USB 接続されたドライブ、およびシステムに接続された VGA モニターを使用して、サーバーに直接オペレーティングシステムをインストールします。

特定のオペレーティングシステムでの CD または DVD によるインストールの詳細については、お使いのインストールソフトウェアに付属のドキュメントや、本書中のオペレーティングシステム固有の章で説明しているオンラインドキュメントを参照してください。

ネットワークインストール (PXE/Jumpstart/RIS)

この方法では、ホストサーバー上でインストールをセットアップし、ネットワーク経由でオペレーティングシステムをインストールします。ネットワークでのインストール方法には、Linux と Solaris 用の Pre-Boot Execution Environment (PXE)、Solaris 用の Jumpstart、および Windows 用のリモートインストールサービス (RIS) があります。

PXE ベースのネットワークインストールを実行するには、次のものがが必要です。

- インストールサーバー
- DHCP サーバー

特定のオペレーティングシステムでのネットワークによるインストールの詳細については、お使いのインストールソフトウェアに付属のドキュメントや、本書中のオペレーティングシステム固有の章で説明しているオンラインドキュメントを参照してください。

特定のオペレーティングシステムに関する次のサブセクションのガイドラインも参照してください。

- [7 ページの「リモートインストール用に推奨される NIC コネクタ」](#)
- [8 ページの「Solaris 10 用 x86 インストールクライアントの追加」](#)

リモートインストール用に推奨される NIC コネクタ

一部のオペレーティングシステムにはネットワークインタフェースカード (NIC) ドライバが含まれていないので、ネットワークインストールには次のコネクタをお勧めします。

- Solaris - ラベルが「0」の Broadcom NIC コネクタを使用してください (「NET MGMT」というラベルの NIC ではありません)。
- Red Hat Enterprise Linux - ラベルが「0」の Broadcom NIC コネクタを使用してください (「NET MGMT」というラベルの NIC ではありません)。

- SUSE Linux Enterprise Server - ラベルが「2」または「3」の NVIDIA NIC コネクタを使用してください。
- Windows - 任意の Broadcom または NVIDIA NIC コネクタを使用してください。

Sun Fire X2100 M2 サーバーに固有の RIS インストールの手順については、[付録 B](#)を参照してください。

Solaris 10 用 x86 インストールクライアントの追加

次の手順は、Solaris 10 のみに適用されます。

Solaris 10 リモートインストールの場合には、インストールサーバーに x86 インストールクライアントを追加し、次のコード例で示すように、インストール中に使用するブートデバイスを指定する必要があります。

インストールクライアントのセットアップ時にブートデバイスを指定すると、インストール時に Device Configuration Assistant からこの情報を求められることはありません。

この例では、次の値を使用します。

- クライアントの IP アドレス : 00:07:e9:04:4a:bf
- サーバーの IP アドレス : 192.168.0.123
- クライアントのマクロ名 : 01000039FCF2EF

次の例で示すコマンドを使用します。

```
# cd /export/boot/Solaris_10/Tools
# ./add_install_client -d -e "00:07:e9:04:4a:bf" i86pc
# dhtadm -A -m 01000039FCF2EF \
-d "BootSrvA=192.168.0.123:BootFile=01000039FCF2EF:"
# pntadm -f 01 -A $CLIENT_IP -i 01000039FCF2EF \
-m 01000039FCF2EF $CLIENT_NET
```


仮想 CD-ROM を使用したリモート KVMS Over IP

この方法では、リモートネットワーク接続されたシステムを使用して Sun Fire X2100 M2 サーバーにオペレーティングシステムをインストールします。オペレーティングシステムのメディアへのアクセスにリモートシステム (仮想 CD-ROM) の CD または DVD ドライブを使用するため、Sun Fire X2100 M2 サーバーの出力はすべてリモートシステム (リモートコンソール) に表示されます。Embedded Lights Out Manager (LOM) で IP 上のキーボード、マウス、ビデオ、ストレージ (KMVS) を使用する詳しい方法は、『Sun Fire X2100 M2 サーバー用 Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』に記載されています。

注 - この手順は、ユーザーが Embedded LOM の WebGUI の管理に慣れていることを前提としています。詳しくは、『Sun Fire X2100 M2 サーバー用 Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』をお読みください。

Remote KVMS Over IP のインストールには、次のような要件があります。

- ネットワークに接続されたリモートシステム
 - リモートシステムにインストールされた Internet Explorer、Mozilla または Firefox のブラウザ
 - リモートシステムに接続された CD または DVD ドライブ
 - 選択したオペレーティングシステムをインストールするためのメディア
 - 『Sun Fire X2100 M2 サーバー設置マニュアル』に従ってセットアップされた Sun Fire X2100 M2 サーバーの SP
1. リモートシステムで、ブラウザを開き、オペレーティングシステムをインストールする Sun Fire X2100 M2 サーバーの Embedded LOM サービスプロセッサの IP アドレスを入力します。
 2. ログイン画面でユーザー名とパスワードを入力します。
 3. Embedded LOM のメインウィンドウで、「Launch (起動)」をクリックしてリモートコンソールウィンドウを開きます。
 4. Sun Fire X2100 M2 サーバーにインストールするオペレーティングシステムの CD または DVD を、ローカルの CD または DVD ドライブに挿入します。
 5. リモートコンソールウィンドウで、「Storage (ストレージ)」 → 「Mount devices (マウントデバイス)」を選択します。
デバイス設定ウィンドウが表示されます。
 6. 「Storage 1 Source (ストレージ 1 のソース)」フィールドで、ドロップダウン矢印メニューから、オペレーティングシステムのインストールに使用する DVD または CD ドライブを選択します。

7. 「Submit (送信)」をクリックします。
8. リモートの (仮想) CD-ROM から起動するように BIOS を設定します。
 - a. Embedded LOM のメインページを開き、「Control (制御)」→「Power Control (電源制御)」→「Reset (リセット)」を選択します。

Sun Fire X2100 M2 システムが再起動し、リモートコンソール画面から POST プロセスを表示できるようになります。
 - b. システムの再起動中にリモートコンソール画面に戻り、Sun Microsystems のスプラッシュ画面が表示されたら F2 キーを押します。

BIOS セットアップユーティリティが表示されます。
 - c. 「Boot (ブート)」→「Boot Device Priority (ブートデバイス優先度)」を選択し、最初のブートドライブを「Virtual CD/DVD (仮想 CD/DVD)」に変更します。

注 - ブート順の一覧にハードディスクがまだ入っていることを確認します。

- d. F10 キーを押して変更内容を保存し、BIOS を閉じます。

サーバーをリブートすると、仮想 CD-ROM から起動します。オペレーティングシステムをインストールする手順は、ローカルの CD または DVD ドライブとモニターを使用する手順とまったく同じです。

注 - OS をインストールした後、システムにインストールまたは接続された CD または DVD デバイスを使用する場合は、必ず BIOS でローカルの CD-ROM に変更し直してください。

シリアルリダイレクト

この方法では、サーバーの出力をシリアルポートから端末へ送ります。

次の手順をお読みください。ここでは、Solaris 特有の手順をいくつか説明します。他のオペレーティングシステムの詳細な手順については、お使いのオペレーティングシステムのドキュメントのインストール手順を参照してください。

シリアルコンソールを使用してオペレーティングシステムをインストールするには、次の手順に従います。

1. 端末をサービスプロセッサのシリアルポートに接続します。

端末には、VT100、ターミナルエミュレーションを実行する PC、または端末サーバーを使用できます。
2. 端末の受信速度を 9600 ボーに設定します。

3. サービスプロセッサに Administrator としてログインします。
4. お使いのオペレーティングシステムに対応した手順に従って操作します。
- Solaris 以外のオペレーティングシステムの場合は、次の手順をすべて行います。
 - a. 次のコマンドを入力します。

```
start /SP/AgentInfo/console
```

- b. Sun Fire X2100 M2 サーバーを起動します。
PXE 経由で起動するには、BIOS のプロンプトで F12 キーを押します。
 - c. オペレーティングシステムがインストールされたら、サーバーにログインします。
 - Solaris の場合は、次の手順をすべて行います。
 - a. 次のコマンドを入力して、ConsoleMux の値を設定します。

```
cd /SP/AgentInfo  
set ConsoleMux=system
```

- b. Solaris 10 オペレーティングシステムをインストールします。
 - c. Solaris がインストールされたら、root (スーパーユーザー) としてサーバーにログインします。
 - d. 次のファイルを編集します。
 - /boot/solaris/bootenv.rc ファイルで、次の行を次のとおりに編集します。

```
setprop console 'ttyb'  
setprop ttyb-mode 115200,8,n,1,-
```

- /boot/grub/menu.lst ファイルで、次の行を次のとおりに編集します。

```
kernel /platform/i86pc/multiboot -B console=ttyb
```

- /kernel/drv/asy.conf ファイルの最後に、次の行を追加します。

```
name="asy" parent="isa" reg=1,0x2f8,8 interrupts=3;
```

- /var/svc/manifest/system/console-login.xml
ファイルで、次の行を次のとおりに編集します。

```
<propval name='label' type='astring' value='115200' />
```

- e. 次のコマンドで、システムをリブートします。

```
reboot -- -r
```

すると、/SP プロンプトに戻るはずですが。

- f. 次のコマンドを実行します。

```
start /SP/AgentInfo/console
```

すると、起動しているシステムのコンソールの出力が表示されるようになります。

Solaris オペレーティングシステム のインストール

この章では、サーバーへの Solaris 10 OS およびシステム固有ドライバのインストールについて説明します。

注 - 新しい診断パーティションを作成した場合は、このインストールスクリプトを使用して、作成した診断パーティションをマウントする必要もあります（診断パーティションの作成方法については、『Sun Fire X2100 M2 Server Service Manual (Sun Fire X2100 M2 サーバーサービスマニュアル)』(819-6597)を参照)。

ドライバのインストールスクリプトは、Sun Fire X2100 M2 サーバーに付属の Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバの CD に収録されています。また、ツールとドライバの CD の .iso イメージを次のサイトからダウンロードすることもできます。

<http://www.sun.com/servers/entry/x2100/downloads.jsp>

この章では、次の項目について説明します。

- 14 ページの「オペレーティングシステムのインストール」
- 16 ページの「システム固有ドライバのインストール」

オペレーティングシステムのインストール

本書には、Solaris 10 オペレーティングシステムをインストールする場合の総合的な指示は記載されていません。ただし、このセクションに、OS のインストールに関連する作業および使用可能なインストール方法のガイドラインを示しています。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- 14 ページの「オペレーティングシステムのインストールの概要」
- 15 ページの「オペレーティングシステムのインストール方法」

オペレーティングシステムのインストールの概要

次に、Solaris 10 オペレーティングシステムのフレッシュインストールを実行している場合にドライバをインストールする手順を示します。インストール済みのオペレーティングシステムを使用している場合は、ドライバを再インストールする必要はありません。

オペレーティングシステムをインストールする場合の作業マップについては、表 2-1 を参照してください。

表 2-1 Solaris OS を初期インストールする場合の作業マップ

作業	説明	指示書
サーバーをセットアップします。	サーバーハードウェアを設置し、サービスプロセッサを設定します。	『Sun Fire X2100 M2 サーバー設置マニュアル』(819-7529-10)
オペレーティングシステムをインストールできるようにシステムを準備します。	必要に応じて、プライマリブートハードディスクを消去して、BIOSを設定します。	第 1 章
『Sun Fire X2100 M2 サーバーご使用にあたって』を見直します。	このドキュメントには、Solaris OS ソフトウェアおよびパッチに関する最新情報が記載されています。	『Sun Fire X2100 M2 サーバーご使用にあたって』(819-7534-10)

表 2-1 Solaris OS を初期インストールする場合の作業マップ (続き)

作業	説明	指示書
Solaris OS をインストールします。	インストール方法を選択して、インストールに関する指示を見つけます。	15 ページの「オペレーティングシステムのインストール方法」
ツールとドライバの CD からシステム固有ドライバをインストールします。	Solaris 10 オペレーティングシステムを Sun Fire X2100 M2 サーバーで実行するために必要なシステム固有ドライバをインストールします。	16 ページの「システム固有ドライバのインストール」
必要に応じてパッチをインストールします。	パッチは、次の場所にある SunSolve のパッチポータルで入手できます。 http://www.sunsolve.sun.com	『Sun Fire X2100 M2 サーバーご使用にあたって』 (819-7534-10)

オペレーティングシステムのインストール方法

次に示すインストール方法のリストを参照して、実行するインストール形式およびインストールに使用する情報ソースを決定してください。各方法の説明については、6 ページの「オペレーティングシステムのインストール方法の選択」を参照してください。

システムで使用可能なオペレーティングシステムのインストール方法は次のとおりです。

- **DVD または CD-ROM メディアを使用したダイレクトインストール**

次のサイトで、基本インストールに関する指示を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-0544>

- **PXE または Jumpstart を使用したネットワークインストール**

次のサイトで、ネットワークインストールに関する指示を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5504>

注 - 可能な場合は、Broadcom NIC (LAN-0 または LAN-1) を使用してネットワークインストールを行ってください。NVIDIA NIC (LAN-2 および LAN-3) を使用して Jumpstart インストールを行う必要がある場合は、付録 A でパッチをインストールに適用する手順を参照してください。

- **リモート KVMS Over IP**

『Sun Fire X2100 M2 Server System Management Guide (Sun Fire X2100 M2 サーバーシステム管理ガイド)』でリモートコンソールインストールに関する指示を参照してください。

- シリアルリダイレクト

10 ページの「シリアルリダイレクト」を参照するか、次のサイトで基本インストールに関する指示を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-0544>

- インストール済みのイメージ

『Sun Fire X2100 M2 サーバー設置マニュアル』で、インストール済みのイメージの設定に関する指示を参照してください。

Solaris 10 のその他のドキュメントは、<http://docs.sun.com/> から入手できます。

注 - Solaris OS には、広域通信網 (WAN) を経由したブートなど、追加のインストールプログラムが用意されていますが、Sun Fire X2100 M2 サーバーでは、本書に記載された方法のみがサポートされています。

システム固有ドライバのインストール

Solaris 10 が動作する Sun Fire X2100 M2 サーバーにシステム固有ドライバをインストールするには、次の方法を使用できます。

- DVD/CD ドライブまたはモニターが取り付けられていないシステムの場合は、17 ページの「KVMS Over IP を使用したドライバのインストール」の方法を使用してください。
- サーバーに DVD/CD ドライブおよびモニターが取り付けられている場合は、17 ページの「Sun Fire X2100 M2 サーバーへのドライバのダイレクトインストール」の方法を使用してください。

KVMS Over IP を使用したドライバのインストール

この方法は、DVD/CD ドライブまたはモニターが取り付けられていないシステムにドライバをインストールする場合に使用します。

詳細は、[9 ページの「仮想 CD-ROM を使用したリモート KVMS Over IP」](#) または『Sun Fire X2100 M2 サーバー用 Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

Sun Fire X2100 M2 サーバーへのドライバのダイレクトインストール

サーバーに内蔵された DVD ドライブまたは接続された CD ドライブがある場合は、Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバの CD を使用して直接ドライバをインストールできます。

Solaris 10 オペレーティングシステムが動作する Sun Fire X2100 M2 サーバーに直接ドライバをインストールして、診断パーティションをマウントするには、次の手順に従います。

1. Sun Fire X2100 M2 サーバーに root (スーパーユーザー) としてログインします。
2. DVD ドライブに Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバの CD を挿入します。
Solaris 10 オペレーティングシステムが自動的に CD をマウントします。
3. 次のコマンドを入力して、/cdrom/cdrom0/drivers/sx86 ディレクトリへ移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/drivers/sx86
```

4. 次のコマンドを入力して、インストールスクリプトを実行します。

```
# sh install.sh
```

ネットワークドライバとサウンドドライバがインストールされます。
インストールが完了すると、変更を有効にするためにシステムをリブートするよう求めるプロンプトが表示されます。

5. サーバーをリブートします。
6. Xserver の選択肢が表示されたら、デフォルト設定である `Xorg` を選択します。
7. ネットワーク情報を求めるプロンプトが表示されたら、サーバーへアクセスするためのネットワーク情報を入力します。

Linux オペレーティングシステムのインストール

この章では、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) および SUSE Enterprise Linux System (SLES) オペレーティングシステムと、システム固有ドライバのサーバーへのインストールについて説明します。

注 - 新しい診断パーティションを作成した場合は、このインストールスクリプトを使用して、作成した診断パーティションをマウントする必要もあります（診断パーティションの作成方法については、『Sun Fire X2100 M2 Server Service Manual (Sun Fire X2100 M2 サーバーサービスマニュアル)』(819-6597) を参照）。

ドライバのインストールスクリプトは、Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバの CD に収録されています。ツールとドライバ CD は、Sun Fire X2100 M2 サーバーに付属しています。また、ツールとドライバの CD の .iso イメージを次のサイトからダウンロードすることもできます。

<http://www.sun.com/servers/entry/x2100/downloads.jsp>

この章では、次の項目について説明します。

- [20 ページの「オペレーティングシステムのインストール」](#)
- [22 ページの「システム固有ドライバのインストール」](#)
- [25 ページの「アップデートユーティリティの実行」](#)

オペレーティングシステムのインストール

本書には、Linux オペレーティングシステムをインストールする場合の総合的な指示は記載されていません。ただし、このセクションに、OS のインストールに関連する作業および使用可能なインストール方法のガイドラインを示しています。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- 20 ページの「オペレーティングシステムのインストールの概要」
- 21 ページの「オペレーティングシステムのインストール方法」

オペレーティングシステムのインストールの概要

次に、Linux オペレーティングシステムのフレッシュインストールを実行している場合にドライバをインストールする手順を示します。インストール済みのオペレーティングシステムを使用している場合は、ドライバを再インストールする必要はありません。

オペレーティングシステムをインストールする場合の作業マップについては、表 3-1 を参照してください。

表 3-1 オペレーティングシステムをインストールする場合の作業マップ

作業	インストール作業	指示書
サーバーをセットアップします。	サーバーハードウェアを設置し、サービスプロセッサを設定します。	『Sun Fire X2100 M2 サーバー設置マニュアル』(819-7529-10)
オペレーティングシステムをインストールできるようにシステムを準備します。	必要に応じて、プライマリブートハードディスクを消去して、BIOS を設定します。	第 1 章
『Sun Fire X2100 M2 サーバーご使用にあたって』を見直します。	このドキュメントには、Solaris OS ソフトウェアおよびパッチに関する最新情報が記載されています。	『Sun Fire X2100 M2 サーバーご使用にあたって』(819-7534-10)

表 3-1 オペレーティングシステムをインストールする場合の作業マップ

作業	インストール作業	指示書
Linux OS をインストールします。	インストール方法を選択して、インストールに関する指示を見つけます。	21 ページの「オペレーティングシステムのインストール方法」
ツールとドライバの CD からシステム固有ドライバをインストールします。	Linux オペレーティングシステムを Sun Fire X2100 M2 サーバーで実行するために必要なシステム固有ドライバをインストールします。	22 ページの「システム固有ドライバのインストール」
up2date または SUSEWatcher ユーティリティを実行します。	パッチは、次の場所にある SunSolve のパッチポータルで入手できます。 http://www.sunsolve.sun.com	25 ページの「RHEL OS 用の up2date ユーティリティの実行」または 25 ページの「SLES OS 用の SuSEWatcher ユーティリティの実行」

オペレーティングシステムのインストール方法

次に示すインストール方法のリストを参照して、実行するインストール形式およびインストールに使用する情報ソースを決定してください。各方法の説明については、[6 ページの「オペレーティングシステムのインストール方法の選択」](#)を参照してください。

■ DVD または CD-ROM メディアを使用したダイレクトインストール

インストールするオペレーティングシステムに対応するドキュメントで基本インストールに関する指示を参照してください。

- 『Red Hat Enterprise Linux Installation Guide for the x86, Itanium, and AMD64 Architectures (Red Hat Enterprise Linux インストールガイド - x86, Itanium, AMD64)』。このマニュアルは次のサイトから入手できます。

<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/>

- 『SUSE Linux Enterprise Server 9 Administration and Installation (SUSE Linux Enterprise Server 9 管理およびインストールガイド)』。このマニュアルは次のサイトにあります。

http://www.novell.com/documentation/sles9/pdfdoc/sles_9_admin_guide/sles_9_admin_guide.pdf

■ PXE を使用したネットワークインストール

インストールするオペレーティングシステムに対応するドキュメントでネットワークインストールに関する指示を参照してください。

- 『Red Hat Enterprise Linux Installation Guide for the x86, Itanium, and AMD64 Architectures (Red Hat Enterprise Linux インストールガイド - x86, Itanium, AMD64)』。このマニュアルは次のサイトから入手できます。

<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/>

- 『SUSE Linux Enterprise Server 9 Administration and Installation (SUSE Linux Enterprise Server 9 管理およびインストールガイド)』。このマニュアルは次のサイトにあります。

http://www.novell.com/documentation/sles9/pdfdoc/sles_9_admin_guide/sles_9_admin_guide.pdf

注 - NVIDIA NIC (LAN-2 および LAN-3) は Linux のインストールでは完全にはサポートされていないので、Broadcom NIC (LAN-0 または LAN-1) を使用してネットワークインストールを行ってください。

- **リモート KVM Over IP**

9 ページの「[仮想 CD-ROM を使用したリモート KVM Over IP](#)」の指示を参照してください。

- **シリアルリダイレクト**

インストールするオペレーティングシステムに対応するドキュメントでシリアルリダイレクトに関する指示を参照してください。

- 『Red Hat Enterprise Linux Installation Guide for the x86, Itanium, and AMD64 Architectures (Red Hat Enterprise Linux インストールガイド - x86, Itanium, AMD64)』。このマニュアルは次のサイトから入手できます。

<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/>

- 『SUSE Linux Enterprise Server 9 Administration and Installation (SUSE Linux Enterprise Server 9 管理およびインストールガイド)』。このマニュアルは次のサイトにあります。

http://www.novell.com/documentation/sles9/pdfdoc/sles_9_admin_guide/sles_9_admin_guide.pdf

システム固有ドライバのインストール

Sun Fire X2100 M2 サーバーにシステム固有ドライバをインストールするには、次の方法を使用できます。

- DVD/CD ドライブまたはモニターが取り付けられていないシステムの場合は、[23 ページの「KVM Over IP を使用したドライバのインストール」](#)の方法を使用してください。
- サーバーに DVD/CD ドライブおよびモニターが取り付けられている場合は、[23 ページの「Sun Fire X2100 M2 サーバーへのドライバのダイレクトインストール」](#)の方法を使用してください。

KVMS Over IP を使用したドライバのインストール

詳細は、9 ページの「仮想 CD-ROM を使用したリモート KVMS Over IP」または『Sun Fire X2100 M2 サーバー用 Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

Sun Fire X2100 M2 サーバーへのドライバのダイレクトインストール

サーバーに内蔵された DVD ドライブがある場合は、Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバの CD を使用して直接ドライバをインストールできます。

Linux オペレーティングシステムを実行しているときに、サーバーに直接ビデオドライバをインストールして、診断パーティションをマウントするには、次の手順に従います。

1. Sun Fire X2100 M2 サーバーに root (スーパーユーザー) としてログインします。
2. DVD ドライブに Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバの CD を挿入して、次のように入力します。

```
cd /mountpoint/drivers/linux/operating_system
```

ここで、/mountpoint は、CD がマウントされているディレクトリ、operating_system は、サーバーにインストールされている Linux の種類 (red_hat または suse) です。

- CD が自動マウントされなかった場合、このディレクトリは存在しません。その場合、[ステップ 3](#) および [ステップ 4](#) の操作を行い、手動で CD をマウントしてこのディレクトリへ移動する必要があります。
- operating_system ディレクトリへ移動できた場合には、[ステップ 5](#) へ進みます。

3. CD が自動マウントされない場合、端末ウィンドウを開き、次のコマンドを入力して CD をマウントします。

```
# mount -o ro /dev/cdrom /mountpoint
```

/mountpoint には、OS とオプティカルドライブの種類に応じたマウント位置を指定します。

次に例を示します。

```
# mount -o ro /dev/cdrom /mnt/dvdrom
```

4. /mountpoint/drivers/linux/operating_system ディレクトリへ移動します。
ここで、/mountpoint は CD がマウントされているディレクトリ、operating_system はサーバーにインストールされている Linux の種類です。
次に例を示します。

```
# cd /mnt/dvdrom/drivers/linux/red_hat
```

5. 次のコマンドを入力して、インストールスクリプトを実行します。

```
# sh install.sh
```

X サーバーが起動していると、このスクリプトは実行されません。

- スクリプトが異常終了し、エラーメッセージが表示される場合には、[ステップ 6](#) へ進みます。
 - スクリプトが正しく実行されたら、[ステップ 7](#) に進みます。
6. スクリプトが異常終了し、エラーメッセージが表示される場合には、次の手順で X サーバーを無効にします。
 - a. システムプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
% init 3
```

- b. root (スーパーユーザー) としてログインします。
 - c. [ステップ 4](#) および [ステップ 5](#) を繰り返します。
7. ドライバのインストールが完了したら、CD を取り出します。
 8. サーバーを再起動します。

アップデートユーティリティの実行

インストールした Linux オペレーティングシステムに対応するセクションを選択します。

- [25 ページの「RHEL OS 用の up2date ユーティリティの実行」](#)。
- [25 ページの「SLES OS 用の SuSEWatcher ユーティリティの実行」](#)

RHEL OS 用の up2date ユーティリティの実行

オペレーティングシステムをインストールし、Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバの CD からドライバをインストールした後、up2date ユーティリティを実行します。

up2date ユーティリティを実行するには、次の手順に従います。

1. サーバーで up2date ユーティリティをセットアップします。
詳細については、Red Hat Enterprise Linux メディアキットに付属のドキュメントを参照してください。
2. up2date プログラムを実行します。
利用できるパッケージアップデートのセクションでカーネルパッケージを選択します。

SLES OS 用の SuSEWatcher ユーティリティの実行

オペレーティングシステムをインストールし、Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバの CD からドライバをインストールした後、SuSEWatcher ユーティリティを実行します。

SuSEWatcher ユーティリティを実行するには、次の手順に従います。

1. サーバーで SuSEWatcher ユーティリティをセットアップします。
詳細については、SLES 9 メディアキットに付属のドキュメントを参照してください。
2. SuSEWatcher プログラムを実行します。
利用できるパッケージアップデートのセクションでカーネルパッケージを選択します。

Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストール

この章では、Windows Server 2003 用のドライバをサーバーにインストールする手順について説明します。

注 - Windows の RAID ドライバをインストールする場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に、2003Reburn スクリプトを使用して RAID ドライバをインストールしておく必要があります。30 ページの「RAID 設定を持つ Windows Server 2003 のインストール」を参照してください。

ドライバのインストールスクリプトは、Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバ CD に収録されています。ツールとドライバ CD は、Sun Fire X2100 M2 サーバーに付属しています。ツールとドライバ CD は、次のサイトからもダウンロードできます。

<http://www.sun.com/servers/entry/x2100/downloads.jsp>

この章では、次の項目について説明します。

- 28 ページの「オペレーティングシステムのインストール」
- 29 ページの「Windows Update の実行」
- 30 ページの「RAID 設定を持つ Windows Server 2003 のインストール」
- 34 ページの「イーサネットドライバとチップセットドライバのインストール」

オペレーティングシステムのインストール

本書には、Windows オペレーティングシステムをインストールする場合の総合的な指示は記載されていません。ただし、このセクションに、OS のインストールに関連する作業および使用可能なインストール方法のガイドラインを示しています。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- 28 ページの「オペレーティングシステムのインストールの概要」
- 29 ページの「オペレーティングシステムのインストール方法」

オペレーティングシステムのインストールの概要

オペレーティングシステムをインストールする場合の作業マップについては、[表 4-1](#) を参照してください。

表 4-1 Solaris OS を初期インストールする場合の作業マップ

作業	説明	指示書
サーバーをセットアップします。	サーバーハードウェアを設置し、サービスプロセッサを設定します。	『Sun Fire X2100 M2 サーバー設置マニュアル』(819-7529-10)
オペレーティングシステムをインストールできるようにシステムを準備します。	必要に応じて、プライマリブートハードディスクを消去して、BIOS を設定します。	第 1 章
『Sun Fire X2100 M2 サーバーご使用にあたって』を見直します。	このドキュメントには、Windows OS ソフトウェアおよびパッチに関する最新情報が記載されています。	『Sun Fire X2100 M2 サーバーご使用にあたって』(819-7534-10)
Windows OS をインストールします。	インストール方法を選択して、インストールに関する指示を見つけます。	29 ページの「オペレーティングシステムのインストール方法」
ツールとドライバの CD からシステム固有ドライバをインストールします。	Windows オペレーティングシステムを Sun Fire X2100 M2 サーバーで実行するために必要なシステム固有ドライバをインストールします。	30 ページの「RAID 設定を持つ Windows Server 2003 のインストール」
Windows Update を実行します。	必ず Windows Update を実行して Microsoft Windows の最新機能を手に入れます。	http://update.microsoft.com/microsoftupdate/

オペレーティングシステムのインストール方法

次に示すインストール方法のリストを参照して、実行するインストール形式およびインストールに使用する情報ソースを決定してください。各方法の説明については、6 ページの「オペレーティングシステムのインストール方法の選択」を参照してください。

■ DVD または CD-ROM メディアを使用したダイレクトインストール

基本的なインストール手順については、次のサイトで『Installing Windows Server 2003 R2 (Windows Server 2003 R2 のインストール)』を参照してください。

<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/en/Library/>

■ RIS を使用したネットワークインストール

RIS インストールの手順については、付録 B の「Windows Server 2003 R2 のインストール」を参照してください。

■ リモート KVMS Over IP

リモートコンソールでのインストール手順については、9 ページの「仮想 CD-ROM を使用したリモート KVMS Over IP」または『Sun Fire X2100 M2 サーバー用 Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

■ シリアルリダイレクト

シリアルリダイレクトのインストール手順については、次のサイトで『Installing Windows Server 2003 R2 (Windows Server 2003 R2 のインストール)』を参照してください。

<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/en/Library/>

Windows Update の実行

Windows Update を実行するには、次に示す Windows Update ダウンロードサイトの手順に従います。

<http://update.microsoft.com/microsoftupdate/>

RAID 設定を持つ Windows Server 2003 のインストール

Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバ CD には、Windows 2003 用の Broadcom NIC、AST2000 ディスプレイ、NVIDIA チップセット (SATA と NIC)、および NVRAID ドライバが収録されています。NVRAID ドライバをインストールする場合は、Windows 2003 オペレーティングシステムをインストールする前に、2003Reburn スクリプトを使用して必要なドライバを含む新しい Windows 2003 の CD を作成するか、またはドライバをインストールするためのブートディスクを作成しておく必要があります。

RAID ドライバをインストールする手順の 1 つを選択します。どちらの手順でも、特別なオペレーティングシステム要件を満たす別のシステムを使用する必要があります。

- [30 ページの「Solaris または Linux を使用した 2003Reburn CD の作成」](#)
- [32 ページの「ブートディスクを使用した Windows の RAID ドライバのインストール」](#)

Solaris または Linux を使用した 2003Reburn CD の作成

Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバ CD には、必要な RAID ドライバを含む新しい Windows Server 2003 CD を作成するためのスクリプトが収録されています。新しい CD が作成できたら、その CD から起動して Windows Server 2003 を通常の方法でインストールできます。必要なドライバがすべて自動的にインストールされるため、USB フロッピーディスクドライブを接続して NVRAID ドライバをインストールする手間を省くことができます。

2003Reburn スクリプトに関する固有および最新の情報については、ツールとドライバ CD の `/utilities/reburn` にあるスクリプトの冒頭に記載されている説明を参照してください。

RAID 設定を持つ Windows 2003 をインストールするには、次のものを使用します。

- x86 プラットフォーム用 Solaris オペレーティングシステム、Solaris オペレーティングシステム (SPARC® Platform Edition)、Red Hat Enterprise Linux 3 または 4、SUSE Linux Enterprise System (SLES) 9 のいずれかが動作しているシステム
- CD パーナー
- 空の CD-R または CD-RW

- Windows Server 2003 CD (製品版のみ、OEM 版は不可)
- Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバ CD

Sun Fire X2100 サーバー用ドライバを含む Windows Server 2003 CD を作成するには、次の手順に従います。

1. Solaris x86, Solaris OS (SPARC Platform Edition)、Red Hat Enterprise Linux 3 または 4、SLES 9 を OS とするシステムで、Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバ CD を CD または DVD ドライブに挿入します。
2. root (スーパーユーザー) としてログインします。
3. 1.2G バイト以上の容量を持つ一時ディレクトリを作成します。
次に例を示します。

```
# mkdir /files
```

4. 2003REBURN_version.zip ファイルをその一時ディレクトリにコピーします。
ここで、version は、2003Reburn のバージョン番号です。
次に例を示します。

```
# cp /utilities/reburn/2003reburn_1.0.zip /files
```

5. ツールとドライバ CD を取り出して、製品版の Windows Server 2003 (32 ビットまたは 64 ビット) CD を挿入します。
6. 2003Reburn_version.zip ファイルを解凍します。
次に例を示します。

```
# unzip -q 2003Reburn_1.0.zip
```

7. 2003Reburn スクリプトを実行します。
次に例を示します。

```
# ./files/2003Reburn -b
```

スクリプトは、現在のディレクトリにあるはずのドライバファイルを表示します。4 つのドライバファイルをすべて一時ディレクトリにダウンロードし終わると、スクリプトは、新しい ISO イメージを作成し、システムに CD バーナーがあれば、自動的にその ISO イメージを CD に焼き付けます。

8. CD が作成できたら、Sun Fire X2100 M2 サーバー BIOS で RAID を設定します。
 - a. サーバーをリブートし、Sun ログ画面で F2 キーを押します。
BIOS 設定画面が表示されます。
 - b. メインメニューから「Integrated Peripherals (統合された周辺装置)」を選択します。
 - c. 「RAID config (RAID 構成)」を選択します。
 - d. RAID の設定を「Enable (有効にする)」に変更します。
 - e. F10 キーを押して変更を保存し、設定画面を閉じます。
9. NVRAID BIOS で RAID を設定します。
 - a. F10 キーを押して NVRAID BIOS を開きます。
 - b. 0 または 1 を選んで RAID アレイを作成します。
 - c. BIOS を終了します。
10. Reburn スクリプトを使用して作成した Windows Server 2003 を、Sun Fire X2100 M2 サーバーの DVD ドライブに挿入します。
11. Enter キーを押して、Windows Server 2003 のインストールを続行します。
12. OS のインストールが完了したら、34 ページの「イーサネットドライバとチップセットドライバのインストール」に従って、NVIDIA ディスプレイドライバとチップセットドライバをインストールします。

ブートディスクを使用した Windows の RAID ドライバのインストール

このセクションでは、Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバ CD を使用して NVIDIA RAID ドライバのブートディスクを作成する方法と、そのドライバをサーバーにインストールする方法について説明します。

ブートディスクを使用して NVIDIA RAID ドライバをインストールするには、次のものがが必要です。

- CD およびディスクドライブを持つ Windows システム
- 空のフロッピーディスク
- Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバ CD
- USB フロッピーディスクドライブ
- Windows 2003 CD (製品版のみ、OEM 版は不可)

RAID ドライバのブートディスクを作成するには、次の手順に従います。

1. Windows システムで、Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバ CD を挿入します。
2. 空のフロッピーディスクを Windows システムに挿入します。
3. ツールとドライバ CD の `aata_ide` ディレクトリの内容をフロッピーディスクにコピーします。お使いのオペレーティングシステムのバージョンに対応したパスを使用します。

Windows Server 2003 32 ビットの場合

```
> Copy d: drivers/windows/2003_32/chipset/ide/winxp/sata_ide a:
```

Windows Server 2003 64 ビットの場合

```
> Copy d:drivers/windows/2003_64/chipset/ide/win64/sata_ide a:
```

4. Sun Fire X2100 M2 サーバー BIOS で RAID を設定します。
 - a. サーバーをリブートし、Sun ログ画面で F2 キーを押します。
BIOS 設定画面が表示されます。
 - b. メインメニューから「Integrated Peripherals (統合された周辺装置)」を選択します。
 - c. 「RAID config (RAID 構成)」を選択します。
 - d. RAID の設定を「Enable (有効にする)」に変更します。
 - e. F10 キーを押して変更を保存し、設定画面を閉じます。
5. NVRAID BIOS で RAID を設定します。
 - a. F10 キーを押して NVRAID BIOS を開きます。
 - b. 0 または 1 を選んで RAID アレイを作成します。
 - c. BIOS を終了します。
6. USB フロッピーディスクドライブを Sun Fire X2100 M2 サーバーに取り付けます。
7. 32 ビットまたは 64 ビットの Windows 2003 インストール CD を DVD ドライブに挿入します。
8. F6 キーを押して、サードパーティー製 RAID ドライバのインストールを開始します。
9. S キーを押してから Enter キーを押し、追加ドライバのインストールを指定し、フロッピーディスクを挿入します。
10. 「NVIDIA NForce Storage Controller」を選択します。

11. S キーを押してから Enter キーを押し、追加ドライバのインストールを指定します。
12. 「NVIDIA RAID CLASS DRIVER」を選択します。
13. Enter キーを押して、Windows 2003 のインストールを続行します。
14. OS のインストールが完了したら、34 ページの「イーサネットドライバとチップセットドライバのインストール」に従って、NVIDIA ディスプレイドライバとチップセットドライバをインストールします。

イーサネットドライバとチップセットドライバのインストール

ここでは、Windows のイーサネットドライバとチップセットドライバを Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバ CD からインストールする手順について説明します。次の手順のいずれかを選択して、ドライバをインストールします。

- 34 ページの「KVMS Over IP を使用したドライバのインストール」
- 35 ページの「Sun Fire X2100 M2 サーバーへのドライバのダイレクトインストール」

注 - 2003Reburn オプションを使用して、ドライバを含む Windows 2003 CD を作成した場合は、これらのドライバをインストールする必要はありません。

KVMS Over IP を使用したドライバのインストール

詳細は、9 ページの「仮想 CD-ROM を使用したリモート KVMS Over IP」または『Sun Fire X2100 M2 サーバー用 Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

Sun Fire X2100 M2 サーバーへのドライバのダイレクトインストール

サーバーに内蔵された DVD ドライブがある場合は、Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバの CD を使用して直接ドライバをインストールできます。

Windows Server 2003 のドライバをツールとドライバ CD から直接インストールするには、次の手順に従います。

1. DVD ドライブに Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバの CD を挿入します。
2. チップセットドライバをインストールします。
 - a. Windows Explorer を使用して、ツールとドライバ CD の次のディレクトリに移動します。

```
D:\drivers\windows\OS\chipset
```

ここで、OS は、2003_32 または 2003_64 です。

- b. .exe ファイルをダブルクリックし、インストールウィザードを使用してドライバをインストールします。
3. Broadcom イーサネットドライバをインストールします。
 - a. Windows Explorer を使用して、ツールとドライバ CD の次のディレクトリに移動します。

```
D:\drivers\windows\broadcomNIC
```

- b. Launch.exe ファイルをダブルクリックします。
 - c. 「Install Driver (ドライバのインストール)」 ボタンをクリックします。
 - d. インストールウィザードを使ってドライバをインストールします。
4. AST2000 VGA ドライバをインストールします。
 - a. Windows のデバイスマネージャを開きます。
 - b. 次の手順に従って、デバイスのドライバを更新します。
 - i. ディスプレイのドライバを右クリックして「ドライバの更新」を選択します。ハードウェアの更新ウィザードが表示されます。
 - ii. 「いいえ、今回は接続しません」を選択し、「次へ」をクリックします。

iii. 次のダイアログボックスで、リストからのインストールか、特定の場所からのインストールかを選択して「次へ」をクリックします。

iv. 「参照」を選択して、ツールとドライバ CD の次のディレクトリをポイントします。

```
D:\drivers\windows\OS\video
```

v. ダイアログボックスで「OK」と「次へ」をクリックすると、AST2000 ドライバのインストールが開始します。

5. サーバーをリブートします。

Solaris Jumpstart インストールへのパッチの適用

Solaris Jumpstart インストールの実行に NVIDIA NIC (LAN-2 および LAN-3) の使用を選択している場合、パッチを適用する必要があります。

注 - NVIDIA NIC を使用して Solaris Jumpstart インストールを実行する場合を除き、この手順は不要です。

インストールサーバーとして使用するシステムには CD-ROM ドライブが必要で、サイトのネットワークおよびネームサービスの一部である必要があります。ネームサービスを使用する場合、システムは NIS、NIS+、DNS、または LDAP などのネームサービスをすでに使用している必要があります。ネームサービスを使用しない場合、サイトのポリシーに従って、このシステムについての情報を配信してください。

1. インストールサーバーとするシステムで、`root` (スーパーユーザー) としてログインします。
2. Solaris 10 1/06 (またはそれ以降のバージョン) のメディアをシステムのドライブに挿入します。
3. CD イメージ用のディレクトリを作成します。

```
# mkdir -p install_dir_path
```

`install_dir_path` には、CD イメージをコピーするディレクトリを指定します。

4. マウントしたディスクで、`Tools` ディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/Solaris_10/Tools
```

5. ドライブにあるイメージをインストールサーバーのハードディスクにコピーします。

```
# ./setup_install_server install_dir_path
```

install_dir_path には、CD イメージをコピーするディレクトリを指定します。

注 - `setup_install_server` コマンドは、Solaris 10 ソフトウェアディスクイメージに使用できる十分なディスク容量があるかどうかを示します。使用できるディスク容量を確認するには、`df -k1` コマンドを使用します。

6. ルートディレクトリ (/) に移動します。

```
# cd /
```

7. Solaris 10 メディアを取り出します。

8. `setup_install_server` で作成したネットインストールイメージのミニルートにあるファイルにパッチを適用します。

注意 - この手順の指示に従って `patchadd -C` コマンドを実行する前に、`patchadd -C` コマンドの README を読むか、または最寄りの Sun サポートオフィスにお問い合わせください。

x86 用 Solaris 10 1/06 のミニルートにパッチを適用するには、システムで x86 リリース用 Solaris 10 1/06 (またはそれ以降) を実行している必要があります。

- a. インストールサーバーで x86 リリース用 Solaris 10 1/06 を実行していない場合、x86 リリース用 Solaris 10 1/06 を実行している、ネットワーク上の別のシステムにスーパーユーザーとしてログインしてください。
 - インストールサーバーで x86 リリース用 Solaris 10 1/06 を実行している場合、ステップ b に進みます。
 - x86 リリース用の Solaris 10 1/06 を実行している新しいサーバーを使用する必要がある場合、次のステップを完了します。
 - i. ステップ 5 で作成したインストールイメージの Tools ディレクトリに移動します。

```
# cd install_server_path/install_dir_path/Solaris_10/Tools
```

install_server_path には、`/net/installserver-1` のように、ネットワーク上のインストールサーバーシステムへのパスを指定します。

install_dir_path には、CD イメージをコピーしたディレクトリを指定します。

- ii. 新しいインストールイメージを作成し、x86 リリース用の Solaris 10 1/06 を実行しているシステムに配置します。

```
# ./setup_install_server remote_install_dir_path
```

remote_install_dir_path には、新しいインストールイメージを作成する x86 システム用 Solaris 10 1/06 でのパスを指定します。

このコマンドでは、x86 システム用 Solaris 10 1/06 に一時インストールイメージを作成して、このイメージにパッチを適用できるようにします。

- b. ネットワークインストール用ブートアーカイブを解凍します。

```
# /boot/solaris/bin/root_archive unpackmedia \  
install_dir_path destination_dir
```

install_dir_path には、x86 ネットワークインストールイメージへのパスを指定します。ステップ a で新しいインストールイメージを作成した場合、Solaris 10 1/06 x86 システム上の新しいイメージへのパスを指定します。

destination_dir には、解凍したブートアーカイブを格納するディレクトリへのパスを指定します。

- c. 解凍したブートアーカイブにパッチを適用します。

```
# patchadd -C destination_dir path_to_patch/patch_id
```

destination_dir には、解凍したブートアーカイブを格納しているディレクトリへのパスを指定します。

path_to_patch には、`/var/sadm/spool` のように、追加するパッチへのパスを指定します。

patch_id には、に適用するパッチの ID を指定します。

複数のパッチを指定するには、`patchadd -M` オプションを使用します。詳細については、`patchadd(1M)` を参照してください。

注意 – パッチの README の指示を読み終えるか、または最寄りの Sun サポートオフィスに問い合わせるまで、`patchadd -C` コマンドは使用しないでください。

d. x86 ブートアーカイブを圧縮します。

```
# /boot/solaris/bin/root_archive packmedia \  
install_dir_path destination_dir
```

install_dir_path には、x86 ネットワークインストールイメージへのパスを指定します。

destination_dir には、解凍したブートアーカイブを格納しているディレクトリへのパスを指定します。

e. 必要に応じて、パッチを適用したミニルートをインストールサーバー上のインストールイメージにコピーします。

x86 システム用のリモート Solaris 10 1/06 にパッチを適用した場合、パッチを適用したミニルートをインストールサーバーにコピーする必要があります。

```
# cp remote_install_dir_path/boot/x86.miniroot \  
install_server_path/install_dir_path/boot/x86.miniroot
```

install_server_path には、ネットワーク上のインストールサーバーシステムへのパスを指定します。

install_dir_path には、x86 ネットワークインストールイメージへのパスを指定します。

Windows RIS インストールの実行

この付録では、リモートインストールサービス (RIS) のネットワークインストールを使用して、Windows Server 2003 オペレーティングシステムを Sun Fire X2100 M2 サーバーにインストールする方法について説明します。インストールする Windows Server 2003 のバージョンに対応するセクションを選択してください。

- 41 ページの「Windows Server 2003 SP1 32 ビットのインストール」
- 46 ページの「Windows Server 2003 64 ビットのインストール」

B.1 Windows Server 2003 SP1 32 ビットのインストール

1. RIS サポートを Windows Server 2003 システムにインストールします。RIS を Windows Server 2003 にインストールする方法の詳細については、次のアドレスにアクセスしてください。
<http://support.microsoft.com/kb/325862/ja>
2. 次の手順に従って、Windows Server 2003 SP1 32 ビットを RIS サーバーにインストールします。
 - a. Windows Server 2003 SP1 32 ビットの CD を RIS サーバーの CD-ROM ドライブに挿入します。
 - b. 「スタート」 → 「ファイル名を指定して実行」を選択します。
 - c. 「ファイル名を指定して実行」フィールドに **risetup.exe** と入力します。
「Welcome to the Remote Installation Services Setup Wizard (リモートインストールサービスのセットアップウィザードの開始)」ウィンドウが表示されます。
 - d. 「Next (次へ)」をクリックします。

- e. 「Add a new OS image to this remote installation server (新しい OS イメージをこのリモートインストールサーバーに追加する)」を選択して、「Next (次へ)」をクリックします。
 - f. Windows 2003 SP1 32 ビット CD が入っているドライブの場所を選択して、「Next (次へ)」をクリックします。
 - g. 保存した Windows 2003 SP1 32 ビット CD の内容がわかる名前を付け、「Next (次へ)」をクリックします。
例: Sun Fire X2100 M2_Windows_2003_SP1_32bit
 - h. エンドユーザー向けにわかりやすい説明とヘルプテキストを入力し、「Next (次へ)」をクリックして次に進みます。
 - i. 「Use the old client installation screens (古いクライアントインストール画面を使用する)」を選択して、「Next (次へ)」をクリックします。
 - j. 設定を確認し、「Finish (完了)」をクリックして、イメージをインストールします。
 - k. イメージがサーバーにインストールされたら、「Done (完了)」をクリックします。
3. Windows 2003 SP1 32 ビット用 RIS Broadcom イーサネットドライバで、[ステップ 2](#) で作成した RIS イメージをアップデートします。
- RIS Broadcom イーサネットドライバは、ツールとドライバの CD バージョン 1.0 以降に収録されています。
- a. ツールとドライバの CD を RIS サーバーに挿入します。
 - b. Windows 2003 SP1 32 ビット RIS Broadcom イーサネットドライバのファイルを、次の手順に従って、RIS サーバーにローカルにコピーします。

```
> copy cdrom_drive:\drivers\windows\RIS\2003_32\broadcom\*  
C:\temp\broadcom
```

cdrom_drive には、ツールとドライバの CD を挿入したメディアドライブを指定します。

- c. c:\temp\broadcom ディレクトリにあるすべてのファイルを RIS サーバー上にある RIS イメージにコピーします。次に例を示します。

```
> copy C:\temp\broadcom\*.* D:\RemoteInstall\Setup\English\  
Images\image_dir\i386
```

image_dir には、RIS イメージを格納している RIS サーバーを指定します。

4. Windows 2003 SP1 32 ビット用 RIS NVIDIA イーサネットドライバで、[ステップ 2](#) で作成した RIS イメージをアップデートします。

RIS NVIDIA イーサネットドライバは、ツールとドライバの CD バージョン 1.0 以降に収録されています。

- a. ツールとドライバの CD を RIS サーバーに挿入し、Windows 2003 SP1 32 ビット RIS NVIDIA イーサネットドライバのファイルを、次のように入力して、RIS サーバーにローカルにコピーします。

```
> copy cdrom_drive:\drivers\windows\RIS\2003_32\nvidia\*
C:\temp\nvidia
```

cdrom_drive には、ツールとドライバの CD を挿入したメディアドライブを指定します。

- b. *c:\temp\nvidia* にあるすべてのファイルを RIS サーバー上にある RIS イメージにコピーします。
次に例を示します。

```
> copy C:\temp\nvidia\*.* D:\RemoteInstall\Setup\English\Images\
image_dir\i386
```

image_dir には、RIS イメージを格納している RIS サーバーを指定します。

5. 次の内容を追加して、*ristndrd.sif* ファイルを修正します。

ristndrd.sif ファイルの場所は、**D:\RemoteInstall\Setup\English\Images\image_dir\i386\templates** です。

image_dir には、RIS イメージを格納している RIS サーバーを指定します。

- a. 次のエントリを変更します。

```
[Unattended]
OemPreinstall = yes

[GuiUnattended]
AdminPassword = " 任意のパスワード "
```

- b. 次のエントリを削除します。

```
[Identification]
JoinDomain = %MACHINEDOMAIN%
DoOldStyleDomainJoin = Yes
```

- c. 次のエントリを追加します。

```
[Unattended]
DriverSigningPolicy = Ignore
OemPnPDriversPath = "\drivers\nic\nvidia;\drivers\nic\broadcom; /
\drivers\sata_ide;\drivers\smbus;\drivers\video"

[MassStorageDrivers]
"NVIDIA RAID CLASS DRIVER (required)"="OEM"
"NVIDIA nForce Storage Controller (required)"="OEM"

[OEMBootFiles]
nvatabus.sys
nvraid.cat
nvraid.inf
nvraid.sys
txtsetup.oem

[UserData]
ProductKey = XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX

[Identification]
JoinWorkgroup = WORKGROUP
```

6. \$oem\$ ディレクトリとサブディレクトリを RIS イメージに追加します。
- \$oem\$ サブディレクトリを次の場所にある RIS イメージに追加します。
d:\RemoteInstall\Setup\English\Images\image_dir
image_dir には、RIS イメージを格納している RIS サーバーを指定します。
 - \$oem\$ ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。
\$1
\$\$
textmode
 - \$1 ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。
drivers
 - drivers ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。
nic
sata_ide
smbus
video

e. nic ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。

broadcom

nvidia

f. \$\$ ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。

OemDir

7. 次のように、ドライバファイルを \$oem\$ ディレクトリツリーにコピーします。

ツールとドライバの CD には、次の場所に Windows 2003 SP1 32 ビットドライバが収録されています。

cdrom_drive:\drivers\windows\2003_32

```
> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\2003_32\chipset\ide\winxp\
sataraid\*.dll D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\
$oem$\$\OemDir

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\2003_32\chipset\ide\winxp\
sataraid\* D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\oem$\
textmode

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\2003_32\chipset\ide\winxp\
sata_ide\* D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\oem$\
$1\drivers\sata_ide

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\2003_32\chipset\ethernet\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\oem$\$1\drivers\
nic\nvidia

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\2003_32\chipset\smbus\* D:\
remoteinstall\setup\english\images\image_dir\oem$\$1\drivers\
smbus

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\2003_32\broadcom\win2003\
ia32\* D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\oem$\$1\
drivers\nic\broadcom

> Copy cdrom_drive:\drivers\windows\2003_32\video\* D:\
remoteinstall\setup\english\images\image_dir\oem$\$1\drivers\
video
```

8. txtsetup.oem ファイルを修正します。

a. テキストエディタで、D:\RemoteInstall\Setup\English\Images\image_dir\oem\$\textmode\txtsetup.oem ファイルを開きます。

image_dir には、RIS イメージを格納している RIS サーバーを指定します。

- b. [Files.scsi.RAIDCLASS] および [Files.scsi.BUSDRV] セクションにある dll ファイルの各行の先頭にセミコロンを追加してコメントアウトします。
 - c. ファイルを保存し、テキストエディタを終了します。
9. コマンドプロンプトに次のように入力して、RIS サーバーのリモートインストールサービス (BINLSVC) を開始して終了します。

```
> net Stop binlsvc
> net Start binlsvc
```
 10. イメージを Sun Fire X2100 M2 サーバーにインストールします。

B.2 Windows Server 2003 64 ビットのインストール

1. RIS サポートを Windows Server 2003 システムにインストールします。RIS を Windows Server 2003 にインストールする方法の詳細については、次のアドレスにアクセスしてください。
<http://support.microsoft.com/kb/325862/ja>
2. 次の手順に従って、Windows Server 2003 64 ビットを RIS サーバーにインストールします。
 - a. Windows Server 2003 64 ビットの CD を RIS サーバーの CD-ROM ドライブに挿入します。
 - b. 「スタート」 → 「ファイル名を指定して実行」を選択します。
 - c. 「ファイル名を指定して実行」フィールドに **risetup.exe** と入力します。
「Welcome to the Remote Installation Services Setup Wizard (リモートインストールサービスのセットアップウィザードの開始)」ウィンドウが表示されます。
 - d. 「Next (次へ)」をクリックします。
 - e. 「Add a new OS image to this remote installation server (新しい OS イメージをこのリモートインストールサーバーに追加する)」を選択して、「Next (次へ)」をクリックします。
 - f. Windows 2003 64 ビット CD が入っているドライブの場所を選択して、「Next (次へ)」をクリックします。
 - g. 保存した Windows 2003 64 ビット CD の内容がわかる名前を付け、「Next (次へ)」をクリックします。
例: **SunFire_X2100_M2_Windows_2003_64bit**

- h. エンドユーザー向けにわかりやすい説明とヘルプテキストを入力し、「Next (次へ)」をクリックします。
 - i. 「Use the old client installation screens, and overwrite the old ones (古いクライアントインストール画面を使用し、古い画面を上書きする)」を選択して、「Next (次へ)」をクリックします。
 - j. 「Review Settings (設定の確認)」ウィンドウで設定を確認し、「Finish (完了)」をクリックします。
 - k. イメージがサーバーにインストールされたら、「Done (完了)」をクリックします。
3. Windows 2003 64 ビット用 RIS Broadcom イーサネットドライバで、[ステップ 2](#) で作成した RIS イメージをアップデートします。
- RIS Broadcom イーサネットドライバは、ツールとドライバの CD バージョン 1.0 以降に収録されています。
- a. ツールとドライバの CD を RIS サーバーに挿入します。
 - b. Windows 2003 64 ビット RIS Broadcom イーサネットドライバのファイルを、次の手順に従って、RIS サーバーにローカルにコピーします。

```
> copy cdrom-drive:\drivers\windows\RIS\2003_64\broadcom\*  
C:\temp\broadcom
```

cdrom_drive には、ツールとドライバの CD を挿入したメディアドライブを指定します。

- c. c:\temp\broadcom ディレクトリにあるすべてのファイルを RIS サーバー上にある RIS イメージにコピーします。次に例を示します。

```
> copy C:\temp\broadcom\*.* D:\RemoteInstall\Setup\English\  
Images\image_dir\amd64
```

image_dir には、RIS イメージを格納している RIS サーバーを指定します。

4. Windows 2003 64 ビット用 RIS NVIDIA イーサネットドライバで、[ステップ 2](#) で作成した RIS イメージをアップデートします。
- RIS NVIDIA イーサネットドライバは、ツールとドライバの CD バージョン 1.0 以降に収録されています。

- d. ツールとドライバの CD を RIS サーバーに挿入し、Windows 2003 64 ビット RIS NVIDIA イーサネットドライバのファイルを、次のように RIS サーバーにローカルにコピーします。

```
> copy cdrom drive:\drivers\windows\RIS\2003_64\nvidia\*  
C:\temp\nvidia
```

cdrom_drive には、ツールとドライバの CD を挿入したメディアドライブを指定します。

- e. c:\temp\nvidia にあるすべてのファイルを RIS サーバー上にある RIS イメージにコピーします。
次に例を示します。

```
> copy C:\temp\nvidia\*. * D:\RemoteInstall\Setup\English\Images\  
image_dir\amd64
```

image_dir には、RIS イメージを格納している RIS サーバーを指定します。

5. 次の内容を追加して、ristndrd.sif ファイルを修正します。

ristndrd.sif ファイルの場所は、**D:\RemoteInstall\Setup\English\Images\image_dir\amd64\templates** です。

image_dir には、RIS イメージを格納している RIS サーバーを指定します。

- a. 次のエントリを変更します。

```
[Unattended]  
OemPreinstall = yes  
  
[GuiUnattended]  
AdminPassword = " 任意のパスワード "
```

- b. 次のエントリを削除します。

```
[Identification]  
JoinDomain = %MACHINEDOMAIN%  
DoOldStyleDomainJoin = Yes
```


c. 次のエントリを追加します。

```
[Unattended]
DriverSigningPolicy = Ignore
OemPnPDriversPath = "\drivers\nic\nvidia;\drivers\nic\broadcom; /
\drivers\sata_ide;\drivers\smbus;\drivers\video"

[MassStorageDrivers]
"NVIDIA RAID CLASS DRIVER (required)"="OEM"
"NVIDIA nForce Storage Controller (required)"="OEM"

[OEMBootFiles]
nvatax64.sys
nvraid.cat
nvr dx64.inf
nvr dx64.sys
txtsetup.oem

[UserData]
ProductKey = XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX

[Identification]
JoinWorkgroup = WORKGROUP
```

6. \$oem\$ ディレクトリとサブディレクトリを RIS イメージに追加します。

a. \$oem\$ サブディレクトリを次の場所にある RIS イメージに追加します。

d:\RemoteInstall\Setup\English\Images\image_dir

image_dir には、RIS イメージを格納している RIS サーバーを指定します。

b. \$oem\$ ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。

\$1

\$\$

textmode

c. \$1 ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。

drivers

d. drivers ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。

nic

sata_ide

smbus

video

e. nic ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。

broadcom

nvidia

f. \$\$ ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。

OemDir

7. 次のように、ドライバファイルを \$oem\$ ディレクトリツリーにコピーします。

ツールとドライバの CD には、次の場所に Windows 2003 64 ビットドライバが収録されています。

cdrom_drive: \drivers\windows\2003_64

cdrom_drive には、ツールとドライバの CD を挿入したメディアドライブを指定します。

```
> Copy cdrom_drive: \drivers\windows\2003_64\chipset\ide\win64\
sataraid\*.dll D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\
$oem$\$$\OemDir

> Copy cdrom_drive: \drivers\windows\2003_64\chipset\ide\win64\
sataraid\* D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\
textmode

> Copy cdrom_drive: \drivers\windows\2003_64\chipset\ide\win64\
sata_ide\* D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\
$1\drivers\sata_ide

> Copy cdrom_drive: \drivers\windows\2003_64\chipset\ethernet\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\
nic\nvidia

> Copy cdrom_drive: \drivers\windows\2003_64\chipset\smbus\* D:\
remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\
smbus

> Copy cdrom_drive: \drivers\windows\2003_64\broadcom\nic\win2003\x64\
* D:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\
nic\broadcom

> Copy cdrom_drive: \drivers\windows\2003_64\video\* D:\
remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\
video
```

8. `txtsetup.oem` ファイルを修正します。

a. テキストエディタで、`D:\RemoteInstall\Setup\English\Images\image_dir\%oem%\textmode\txtsetup.oem` ファイルを開きます。

`image_dir` には、RIS イメージを格納している RIS サーバーを指定します。

b. `[Files.scsi.RAIDCLASS]` および `[Files.scsi.BUSDRV]` セクションにある `dll` ファイルの各行の先頭にセミコロンを追加してコメントアウトします。

c. ファイルを保存し、テキストエディタを終了します。

9. コマンドプロンプトに次のように入力して、RIS サーバーのリモートインストールサービス (BINLSVC) を開始して終了します。

```
> net Stop binlsvc
```

```
> net Start binlsvc
```

10. イメージを Sun Fire X2100 M2 サーバーにインストールします。

ネットワークインタフェースの設定

ネットワークインタフェースカード (NIC) コネクタは、システム上で次のように物理的ラベルが付いています。

表 C-1 NIC コネクタのラベル

NIC コネクタのラベル	インタフェースタイプ
net0	第 1 Broadcom インタフェース
net1	第 2 Broadcom インタフェース
net2	第 2 NVIDIA インタフェース
net3	第 1 NVIDIA インタフェース

Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバの CD から `install.sh` を実行するまで OS に検出されない NIC もあります。また、インストールしたオペレーティングシステムに従って NIC に割り当てた `ifconfig` インタフェースは、Sun Fire X2100 M2 サーバーのツールとドライバの CD からドライバをインストールした後、変更される場合があります。

サポートされている Linux または Solaris オペレーティングシステムそれぞれへの `ifconfig` の割り当てについては、次のセクションを参照してください。

Red Hat Enterprise Linux 4 Update 3

ツールとドライバの CD からドライバをインストールする前には、NVIDIA インタフェースは検出されません。ツールとドライバの CD からドライバをインストールした後、NVIDIA NIC が検出され、Broadcom NIC については、インタフェースの順序はそのままです。ifconfig インタフェースの順序は、表 C-2 に記載されています。

表 C-2 Red Hat Enterprise Linux 4 Update 3

ifconfig インタフェース	物理インタフェース
eth0	net3
eth1	net2
eth2	net0
eth3	net1

Red Hat Enterprise Linux 3 Update 7

ツールとドライバの CD からドライバをインストールする前には、NVIDIA インタフェースは検出されません。ツールとドライバの CD からドライバをインストールした後、NVIDIA NIC が検出され、設定されます。変更された ifconfig インタフェースの順序は、表 C-3 に記載されています。

表 C-3 Red Hat Enterprise Linux 3 Update 7

ifconfig インタフェース	物理インタフェース
ツールとドライバの CD のアップデート前	
eth0	net0
eth1	net1
ツールとドライバの CD のアップデート後	
eth0	net3
eth1	net2
eth2	net0
eth3	net1

Solaris 10 6/06 (Build 9a)

ツールとドライバの CD からドライバをインストールする前には、NVIDIA インタフェースは検出されません。Broadcom インタフェースは bge0 および bge1 です。ツールとドライバの CD からドライバをインストールした後、NVIDIA NIC (nge0 および nge1) が検出され、設定されます。変更された ifconfig インタフェースの順序は、表 C-4 に記載されています。

表 C-4 Solaris 10 6/06 (Build 9)

ifconfig インタフェース	物理インタフェース
ツールとドライバの CD のアップデート前	
bge0	net0
bge1	net1
ツールとドライバの CD のアップデート後	
nge0	net3
nge1	net2
bge0	net0
bge1	net1

SLES 9 SP 3

ツールとドライバの CD からドライバをインストールする前には、OS をインストールした後に Broadcom インタフェースは検出されません。ツールとドライバの CD からドライバをインストールした後、Broadcom NIC が検出されます。NVIDIA インタフェースの順序に変更は見られません。変更された ifconfig インタフェースの順序は、表 C-5 に記載されています。

表 C-5 SLES 9 SP 3

ifconfig インタフェース	物理インタフェース
ツールとドライバの CD のアップデート前	
eth0	net3
eth1	net2
ツールとドライバの CD のアップデート後	
eth0	net3

表 C-5 SLES 9 SP 3

ifconfig インタフェース	物理インタフェース
eth1	net2
eth2	net0
eth3	net1

索引

B

BIOS

- Linux OS 用の設定, 5
- Solaris 10 OS 用の設定, 5
- Windows Server 2003 用の設定, 6

J

Jumpstart インストール

- 概要, 7
- パッチ, 37

K

KVMS over IP

- Linux ドライバのインストール, 23
- Solaris ドライバのインストール, 17
- Windows Server 2003 のインストール, 34
- オペレーティングシステムのインストール, 9

L

Linux

- オペレーティングシステムのインストール, 19
- オペレーティングシステムのインストール方法, 21
- ドライバのインストール, 22

P

- PXE インストールの概要, 7

R

Red Hat Enterprise Linux

- BIOS の設定, 5
- KVMS over IP によるインストール, 23
- サポートされているバージョン, 2
- ネットワークインタフェース設定, 54

RIS インストール

- 概要, 7
- 詳細な手順
 - 32 ビット Windows 2003 Server, 41
 - 64 ビット Windows 2003 Server, 46

S

Solaris

- BIOS の設定, 5

Solaris 10

- KVMS over IP インストール, 17
- サポートされているバージョン, 2
- ドキュメント, vii
- ドライバのダイレクトインストール, 17
- ネットワークインタフェース設定, 55

SUSE Linux Enterprise Server

- BIOS の設定, 5
- KVMS over IP によるインストール, 23
- サポートされているバージョン, 2
- ネットワークインタフェース設定, 55

W

Windows Server 2003

- KVMS over IP によるインストール, 34
- RAID ドライバのインストール, 30
- サポートされているバージョン, 2
- チップセットドライバとイーサネットドライバのインストール, 35
- ドライバのダイレクトインストール, 35

Windows Server 2003 用の RAID ドライバのインストール, 30

い

イーサネットドライバ

- Windows Server 2003 用のインストール, 35
- インストール、オペレーティングシステムリモート KVMS over IP を使用, 9

お

オペレーティングシステムのインストール

- BIOS の設定, 5
- CD/DVD を使用, 7
- CD または DVD によるインストール, 7
- Jumpstart を使用, 7
- PXE を使用, 7
- Red Hat Enterprise Linux, 19
- RIS を使用, 7
- Solaris 10, 13
- SUSE Linux Enterprise Server, 19
- Windows Server 2003, 27
- インストールのタスク, 3
- インストール方法の選択, 6
- 概要, 1
- サポートされている
 - オペレーティングシステム, 2
- シリアルリダイレクト, 10
- 推奨される NIC コネクタ, 7
- タスク, 3
- ディスプレイ環境の設定, 4
- ネットワークインストール, 7
- ネットワークを使用, 7
- プライマリブートハードディスクの消去, 4
- 方法, 6
- リモート KVMS over IP を使用, 9

さ

- サポートされているオペレーティングシステム, 2
- サポートの連絡先 URL, vii

し

- シリアルリダイレクトされたオペレーティングシステムのインストール, 10

た

- タスク、オペレーティングシステムのインストール, 3

ち

- チップセットドライバ
 - Windows Server 2003 用のインストール, 35

て

- ディスプレイ環境
 - インストール用の設定, 4

と

- トレーニングの連絡先 URL, vii
- ドキュメント
 - Solaris, vii
 - Sun Fire X2100 M2 サーバー, vii
 - 関連, vii
 - フィードバック, viii
- ドライバ
 - Red Hat Enterprise Linux
 - KVMS over IP によるインストール, 23
 - ドライバのダイレクトインストール, 23
 - Solaris 10
 - KVMS over IP インストール, 17
 - ダイレクトインストール, 17
 - SUSE Linux Enterprise Server
 - KVMS over IP によるインストール, 23
 - ドライバのダイレクトインストール, 23
 - Windows Server 2003
 - KVMS over IP によるインストール, 34
 - RAID ドライバのインストール, 30
 - ダイレクトインストール, 35

ドライバのダイレクトインストール
Red Hat Enterprise Linux, 23
Solaris 10, 17
SUSE Linux Enterprise Server, 23
Windows Server 2003, 35

ね

ネットワークインストール用の NIC コネクタ, 7
ネットワークインタフェース設定
Red Hat Enterprise Linux, 54
Solaris 10, 55
SUSE Linux Enterprise Server, 55
概要, 53

ふ

ブートハードディスク
プライマリブートハードディスクの消去, 4
プライマリブートハードディスクの消去, 4

